

第2WG 評価コメント

評価者のコメント

事業番号2-47 無償資金協力援助(各協力案件の選定方法)

事後評価については、失敗例、目的を達成しなかったケースの分析も十分に行い、次年度以降に活かすこと、それ自体が援助自体と同様に大事だと考える。(外交的な機密に属することが万が一あれば、それは別にして)国別援助計画を戦略的に作成する。まずそれが見直しの第一歩。見直し自体をプロセス化・数量化していくべきである。(外交機密があるにせよ)仕事の進め方自体に改善意欲が見られず、スピードが遅い。

援助額ありきの外交から、一刻も早く脱却すべき。PDCAサイクルの確立をすべき。

無償資金援助が相当程度政治マターであることは理解しているが、少なくとも選定・評価の透明化、PDCAの確実な実施がなければならないと考える。

会計検査院で指摘される事例が多い。より厳格で透明性の高い第三者機関で事前・事後評価をすべき。

相手国との交渉・調整が必要であることは理解できるが、透明化を図るべきであり、透明化できない場合にも、その理由を明らかにすべき。

外務省自身が援助先の実態をどのくらい把握しているかに疑いを持つ。準備調査のコンサルは大変大きい役割をもっているが、その後の経過についても監督責任があるはず。何の事業であれ企画段階で踏み外していると単に無駄だったということにとどまらず、大きな負荷を周囲環境に与える可能性が高い。もっとオープンに調査段階から外部の目を入れるべきである。

外務省は管理責任をしっかりと果たされたい。

国別援助計画のない国のローリングプランが策定された根拠の明確化を公表。審査過程を「外交」のオブラートにつつまず公開していくべき。有償と無償の基準を透明性を持ったプロセスで策定すべき。ノンプロジェクト無償・食糧援助・貧困農民支援について抜本的な見直しをすべき。

国別援助計画が大前提。法制化を踏まえた幅広い「社会インフラ」を対象とすべき。直ちに、無償＝タイドを見直し、アンタイドでかつプログラムの中で顔を見せる。コンクリートが人を支えるソフトな仕組みに知恵を使うべき。

ODAの司令塔となるべき。ODAの方向性・指針を考えることに時間を費やすべき。ODA・OOF、民間資金との仕分けをすべき。採択案件に横串を差してみる人がいない。

「モノ」や「施設」の支援のあり方を全面的に見直し、機能に応じて用途限定等の条件を付した利用券(バウチャー)方式を検討すべき。

金額の単純な削減ではなく、資金の効果的・効率的な運用に努めるべき。無償資金協力の重要性は十分に認識している。

WGの評価結果

無償資金協力援助(各協力案件の選定方法)

見直しを行う

(廃止 0名 自治体/民間 0名 見直しは行わない 0名

見直しを行う 13名:

- ア.案件選定過程の透明化、成果目標等の数値化、事後評価の徹底 13名
- イ. 国別援助計画なき支援は削減し、早急に計画を策定 9名
- ウ. その他 5名)

とりまとめコメント

「案件選定過程の透明化、成果目標等の数値化、事後評価の徹底」や「国別援助計画なき支援は削減し、早急に計画を策定」については、仕分け人の評価どおり見直しを行っていただきたい。まずは、援助のPDCAサイクルをしっかりと確立していただきたいと思う。また関連して、国別援助計画についても策定するようお願いしたい。

今回、議論を聞いていると、予算の獲得や消化に汲々とされており、チェックの部分がどうしてもずさんになってしまう感じがあった。会計検査院、さらに参議院の決算委員会等でもODAについての指摘がなされるなど、ずさんな例を数え上げると枚挙にいとまがない。また、外務省の方々が実態の把握をきちっとされているかについても疑わしい部分も見受けられたため、PDCAサイクルのチェックの部分について、より重点を置いていただきたいと思う。さらに、本日は政務官もおいでであるので、有償・無償の切り分け、タイド・アンタイドのあり方等、全般的に見直しを行っていただきたいと思う。

最後に、先ほどのノンプロジェクト無償の見返り資金の情報公開についてであるが、外務大臣が判断すれば出るのかどうかは不明であるが、政務官には、行政刷新会議に提出していただくようお願い申し上げ、評価コメントとしたい。